

福祉サービス第三者評価結果

①第三者評価機関名

パブリックサービスR&C合同会社

②事業者情報

名称： キッズハーモニー・坂戸	種別： 保育所
代表者氏名： 木村 千歳	定員(利用人数)： 48 (53) 名
所在地： 〒350 -0023 埼玉県坂戸市八幡1-3-46	TEL 049-283-4283

③評価実施期間

令和 3 年 9 月 1 日 (契約日) ~ 令和 4 年 3 月 31 日 (評価結果確定日)

④総評

◇特に評価の高い点

○園行事は、コロナ禍の中でもできる内容や方法を模索し、子どもたちの自主性を尊重しながら、職員の創意工夫で実施しています

園行事は、子どもたちの日常の生活に変化と潤いが持てるように、子どもの自主性を尊重して実施しています。昨年度来、コロナ禍を受けて、行事開催にあたりできることを模索し、感染症対策を講じながら保護者に子どもの姿を見てもらう機会を工夫して設けています。今年度は、形式は例年とは異なりますが、3~5歳児は子どもたちが考えたオリンピックにちなんだ競技を行い、0~2歳児は「体を動かす会」として、園庭での行事に取り組みました。また、動画の配信や日々の保育を見せる保育参観と合わせた発表会等、職員間で話し合い、創意工夫して行事を実施しています。

○園庭の環境をうまく活かしながら、栽培をはじめとした食育の取り組みを実践しており、保護者からも好評が得られています

会社の掲げる食育理念「1. お腹がすくリズムのもてる子ども、2. 『食す』仕組みに興味をもつ子ども、3. 『食』のマナーを学べる子ども、4. 感謝の気持ちをもてる子ども、5. 『伝承の味』が好きな子ども、6. 食事を楽しむことができる子ども」に基づき、各年齢に合わせた園の食育計画を作成しています。園庭の環境を少しずつ改良し、うまく活かしながら、季節によりスナップエンドウや里芋、袋で育てているさつま芋等の畑を作り、子どもと共に活動しています。保護者からは、「給食が美味しい、食育に力を入れていて食事の大切さを子どもが身に付けることができる」等の声が複数寄せられています。毎月、給食室と保育者が会議を行い、献立のことや食育に関することなどを話し合い、連携を図りながら食育の取り組みを実践しています。

○様々な取り組みを通じて保育の可視化を図り、保育理念や目標、方針に基づいた保育の展開について、保護者の理解を得ています

コロナ禍により、保護者が園内に入室することを制限している状況を考慮し、玄関にボード（黒板）を設置して、各年齢の「週の活動予定」と「本日の活動」を掲示しています。また、園だよりやクラスだより、給食だより、保健だよりのほか、各年齢の月の制作も玄関内に掲示し、コミュニケーションアプリの連絡帳でも子どもの様子とともに文書や写真を配信しています。様々な取り組みを通じて保育の可視化を図り、保護者に園の状況や子どもの様子を発信することで、会社及び当園として大切にしている保育理念や保育目標、方針に基づく保育を展開していることについて、保護者の理解を得ることにつながっています。

◇特にコメントを要する点

○職員が持っている力を活かして保育の質の向上を図り、子どもの主体性を育む保育の構築につなげていくことが期待されます

会社の保育理念に基づき、園目標として「主体性をもった思いやりのある子を育てる」を掲げ、園の中・長期計画では「人材育成、組織づくり」を重点的な課題として設定しています。これらの目標を達成するためには、それぞれの取り組みを連動させて進めていくことが必要と考えられます。非正規を含めた全職員一人ひとりが持っている特性や得意分野の力を引き出し認め合い、保育の振り返りを全体で共有していくことにより、保育の質向上に向けた実践事例を積み重ね、子どもの主体性を育む保育の構築につなげていくことが期待されます。

○中・長期計画の見直しでは、理念実現のための5年間のステップであることを考慮し、新たな流れを作ることが期待されます

当園の中・長期計画は、今年度が前期の計画期間終了年度となり、初の見直しを行うこととなります。これまでの反省・評価で明らかになった事項（目標の数値化やイメージしやすい表現、収支計画との連動等）を踏まえた計画の改定を検討する好機であり、当計画が会社の理念実現に近づいていくための園の5年間のステップを示したものであることを改めて考慮することが望まれます。前述した保育の質向上の方向性や園長の意図等とともに、取り組みの体制や枠組みもより明確に示して職員の参画を確保し、毎年度の事業計画に具体的に展開して実行に移していくという流れを作っていくことが期待されます。

⑤第三者評価結果に対する事業者のコメント

今回の第三者評価を受けて、現状を細かく知ることで、たくさんの気づきがありました。現在の園運営について自分仕事の内容を確認できたことと同時に、現状の保育園の状態を、数値化したり、説明したりしていくことにより、初めて園長の仕事として必要な項目と自覚を知ることが出来ました。またその気づきを今後どう生かすことが望ましいのかを、訪問時と振り返りの時間でお伝えいただけただことに本当に感謝しております。園長の仕事というものに全てのマニュアルはありませんが、基礎となる土台を知ることが出来ました。園づくりに向けて同じ思いを持ちながら職員と共に作っていくことが出来るという事を示していただいた、第三者評価はとても大切なものでした。目指すべき目標をしっかりとみんなが共有できるように伝えあい話し合う園づくりの為に、向き合う力をありがとうございました。

⑥各評価項目にかかる第三者評価結果

別紙「評価細目の第三者評価結果」のとおり